トップツアー旅ホ連総会特集

14年度の事業方針　各連合会長あいさつ

北海道支部連合会

金道太朗会長

企画商品をウェブに

2013年は12年に比べ、日本人のお客さまは宿泊実績で107％、外国人のお客さまは円安の恩恵もあり、140％近い形で推移しました。また、マスコミなどで喧伝されているアベノミクスも北海道では効果もなかなか表れず、私どもの観光業界では厳しい状況に変わりありませんでした。とりわけ、北海道への空の便は、新千歳空港への一極集中が加速し、他の地方空港では、航空機材の小型化や便数の減便が進み、札幌圏への集中が高まっています。

このような状況の下、北海道支部連合会では、トップツアー、トップ会との連携を取り、期間限定でキャンペーンなどの施策を行い、さらなる誘客に努めます。企画商品につきましては、宿泊・宴会場をセットにした「宴会しま専科」でグループなどの取り込みを行い、個人客に対応するため、主にビジネス客を対象にした、宿泊するホテルの朝食を他施設の食事・土産品などに振り向けられる「チイスDEエンジョイプラン」など、他社との差別化ができる商品の開発と販売をさらに強固かつ大胆に行っていきます。

トップツアーの営業は団体に特化をしていますが、この企画商品をウェブへの展開に広げていただき、販売の両輪として確立できる体制を期待します。

トップツアーは昨年9月に株主が東武鉄道に代わり、東武グループの一員として生まれ変わった新たな1年となります。これからは東武グループとのシナジー効果を最大限に発揮し、新たなコラボレーションをしていただき、新生トップツアーとしてのさらなる邁進を期待してやみません。

東北支部連合会

瓜生泰弘会長

総合力利用で元気に

東日本大震災の発生から丸3年が経過して、まだまだ地域の温度差はあるものの、年を追うごとに確実に復興が進んでいることに対し、まずは全国の方々の観光を中心とした支援に、心より感謝の意を表したいと思います。

さて、観光産業は総合産業と呼ばれるように交流人口の増加は地域住民を勇気付けるだけでなく、大きな経済波及効果をもたらします。

その観光による内外の計り知れない力を、われわれ東北に住む人々、特に観光産業に従事する者はこのたび、まざまざと感じることができました。それは従来（震災前）、個々の利益追求に大半を費やしていた経営意識に大きなカルチャーショックを与え、自分の施設を生かした観光による復興、あるいは観光による町づくりを目指す経営者の増加につながったように感じます。

今年度、東北連合会が掲げた「東北はひとつ」という合言葉は、そのような精神の基に、観光産業だけが潤うということから脱却して、観光の総合力を利用して東北全体を元気にしていくために、観光経済の中心である、宿泊産業に従事するわれわれが主役となって行動するという意思表明であると確信いたします。

震災直後、いち早く被災地に向けてボランティアツアーを企画し、東北を支援したトップツアーは、昨年東武鉄道グループの一員として、さらに大きく生まれ変わりました。これからも、本当の意味での「東北はひとつ」を具現化していくために、スクラムを組んで頑張ってまいりたいと考えておるところでございます。

関東支部連合会

川合健次会長

幅広く誘客活動推進

平成25年度は会社および会員の皆さまのご支援により無事終えることができましたこと、御礼申し上げます。

関東支部連合会会員の経営状況は、ここ数年厳しい状況が続きましたが、昨年は若干ではありますが上向き傾向になった感があります。本年度、関東支部連合会通常総会では①支部宣伝販促事業に関する協賛②支部営業推進活性化委員会の活動に対する協賛③社員現地研修に対する協賛④トップレディース会に対する協賛⑤教育旅行部会に対する協賛⑥団体・グループ拡販キャンペーンに対する協賛⑦個人旅行施策に関する協賛―の各事業計画が承認されました。

関東支部連合会といたしまして、連盟本部と連携しながらMICE（温泉会議）の推進、訪日旅行の強化、個人旅行・SIT商品の拡充などを行っていきます。また、トップレディース会の活動に対し、研修や情報交換をしながら女性ならではの視点から経営に資するよう支援をしていきます。その他、支部活性化委員会の活動支援、社員現地研修に対する協賛、教育旅行部会に対する協賛など幅広く誘客活動をしていきます。

さて、昨年トップツアーは東武グループの一員となりました。大変良い方向に向かうことと思います。日本経済の活性化、オリンピック効果への期待など、旅行業界は追い風に乗れるものと思いますが、それには旅行市場の変化を的確に捉え、消費者ニーズの先取りなど、トップツアーおよび関東支部連合会共々スピード感ある運営を心がけ努力しなければならないと思います。会社、会員皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

中部支部連合会

小田孝信会長

中部域内へ誘客促進

昨年2013年は、国内旅行にとって追い風が吹いた年であったように思います。株価上昇による企業業績の向上、円安による海外旅行から国内旅行へのシフト、また訪日旅行者の増加もありました。中部地区では、20年に一度の式年遷宮効果が国内旅行活性化に大きく貢献しました。1420万人の方が伊勢に参拝されたようです。

今年については、昨年ほどの大きなイベントはありませんが、浜名湖花博2014の開催や開業3年目のスカイツリー効果、富士山の世界遺産登録効果もまだ続いているようです。開業まで1年となりました北陸新幹線や善光寺のご開帳など、来年以降の明るい話題がある中、当中部支部連合会としても情報を的確に発信し活動してまいりたいと考えております。

具体的には、昨年より議論を重ねてまいりました、旅ホ連、トップ会、トップツアーの三者共同事業です。

団体営業を得意とする中部管内支店営業マンとの販売会議や研修事業を実施し、域内への送客を推進するために、さらなる情報発信の強化と共有を進めてまいります。中部域内の観光業界は一部には明るい話題があるものの、厳しい環境が続くと予想されますが、旅ホ連、トップ会、そしてトップツアーの「WIN・WIN・WIN」の関係をさらに強化する1年にするべく事業を展開してまいります。

トップツアーにおかれましては、昨年8月に東武鉄道グループの一員となりました。そのシナジー効果にも大いに期待しつつ、当連合会の事業活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

関西支部連合会

金子基文会長

宿泊券増売策を展開

3月7日、ホテル大阪ベイタワーにおいて、平成26年度旅ホ連関西支部連合会代議員総会を開催しました。年末年始は穏やかな天候に関西地区は恵まれ、以前とは違う忙しさの中で年始を迎えられた施設も多かったのではないでしょうか。

安倍政権も落ち着き始め、真価の問われる年になりそうです。最近一部の施設から団体のお客さま単価が上がったケースも耳にするようになりました。実感が湧くのはこれからですが、積極的に政府に期待することなく自助努力で切り抜けていかなければなりません。

しかし、業界で頭を抱えているのは改正耐震改修促進法義務化での診断費や補強工事で、必要なら相当な負担がかかる施設も多くあります。

連合会としても、少しでも会員各社の宿泊券増売に向け施策を展開しなければならないと感じています。昨年、関西地区のトップ会と会社で三者共同事業を立ち上げました。まずは訪日団体の誘客施策を協議し、ベトナムでの誘致活動を行い、現地で日本への旅行企画をしている旅行社や行政と懇談会を開催しました。関西へも、ベトナムから多くの観光客が来始めており、今年もアジア地区の訪日団体は期待できると確信しています。

国内では、今年は目立った行事が少ないです。そのような中、関西ではNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」や秋にオープンするUSJハリーポッターにも期待したいです。

東武鉄道グループに変わったトップツアーと共に変わらぬ強固な関係であり続け、社員の方々と連携していき、長期に渡っての人と人とのつながりを今年度も大切にしていきたいと思います。

中国支部連合会

宮川力会長

魅力ある商品を提供

昨年の中国支部を振り返ってみますと、やはり60年に一度の出雲大社の「平成の大遷宮」の一言に尽きるかと思われます。伊勢神宮の遷宮と重なったこともあり、特に伊勢と出雲、さらには宮島の厳島神社をも結ぶ周遊ルートにお客さまが集中されたような1年であったかと思われます。

中国支部連合会の基本スタンスは、まずは、支部活動ありきということです。昨年においても、支部への支援体制を強化することと並行し、三者共同事業の推進を掲げて事業展開を進めてまいりました。本年度においても、支部への支援体制強化はもとより、現地の良さをいかに営業現場の皆さんに知っていただけるかの原点に戻り、現地研修やキャラバンを三者共同事業の位置付けにおいて進めてまいりたいと思っております。

4月より消費税率が上がったことにより、私どもも旅館業や旅行業にどこまで影響が及ぶのかはまだまだ読めないところではございますが、お互いが知恵と手法を出し合うことにより、乗り切っていきたいと思います。

トップツアー様におかれましては、東武鉄道グループの一員となられ、経営基盤が盤石となり、中長期的な営業戦略のもと、私ども協定旅館ホテル連盟加盟施設と足並みをそろえ、東から西へ、西から東へと相互送客に期待をする次第です。

中国支部連合会加盟会員である私どもも、地域の良さと旬な情報の発信に努め、各会員が魅力ある商品提供に邁進していく所存でございます。

今後とも中国支部連合会会員施設へのご支援ならびにご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

四国支部連合会

近兼孝休会長

来る霊場開創1200年

先般の四国支部連合会通常総会で会長にご推挙いただき、本年よりさらなる四国の地域観光の発展に努めさせていただく所存であります。何とぞご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、四国では大きなイベントもなく、その反面で周辺地区におかれましては、遷宮神事に代表されましたよう、お客さまの流れが集中した1年であったように思われます。しかしながら、私ども旅館業・観光業に携わる者から見ますと、お客さまの流れが大きく動くことは、大いに歓迎するところではないかと考える次第であります。

本年は、四国はまさに節目の年を迎えます。数ある中でも、皆さまもご承知の通り、四国霊場開創1200年という記念の年を迎えます。今から1200年前、お大師様が四国の人々の災難を除くために開いた霊場が四国霊場であると聞いております。私たちの先人たちも、おもてなしの心を持ってお遍路さんの接待をしてまいりました。

昨年12月に和食が世界無形文化遺産に登録されたことは、記憶に新しいことと思います。四国支部連合会会員も、日本人の精神を表現した世界に誇れる和食を四国ならではのおもてなしの心を持って、お客さまにご提供するよう努めてまいりたいと思います。

トップツアー様におかれましては、東武鉄道グループになられ、ますます今後の事業展開に期待をするところであり、地域の観光産業の発展に全社を挙げてお力添えを賜りたく存じます。今後も四国支部連合会会員施設へのさらなるご支援ご指導を心よりお願い申し上げます。

九州支部連合会

牧野哲朗会長

目玉はドラマや鉄道

昨年は国内の大きなイベントとしては、東京スカイツリー開業、東京ディズニーランドの周年記念、富士山世界遺産登録など、九州観光にはあまり目が向けられていない年でした。

今年の九州の大きな目玉としてまず、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が放映され始めました。「もう一つの関ケ原」とも言われた史話が近畿地区、そして九州を舞台に繰り広げられ、歴史・文化と人情が全国に放映されることで、より新しい観光の魅力を醸し出せると思います。特に九州においては、今まで話題にならず埋もれていたものが、このドラマを通じて発掘され、新しい観光資源になることを大いに期待しています。

また昨年10月より、JR九州がクルーズトレイン「ななつ星」の運行を開始しました。これは九州新幹線の縦軸だけでなく、九州の在来線（横軸）を充実させようと企画されたものだと思います。今までの在来線の持つ郷土の良さと味覚など、九州の持つ「おもてなし」の心を凝縮させた内容の商品づくりになっています。「ななつ星」のおかげで、それぞれの観光地の持っている魅力を広くアピールすることができると思っています。

もう一つの九州の魅力はやはり温泉です。大分県が「おんせん県おおいた」という商標を取得し、温泉を大いに売り込む努力を官民一体で始めました。同じように九州各県が素晴らしい特色ある温泉資源を持っています。今一度、温泉の素晴らしさを感じ、「癒やし」が満喫できる体験をしていただきたいと思います。

トップツアーの発展を心から期待しているところでございます。

沖縄支部連合会

宮里一郎会長

県政策と事業を連動

2013年の沖縄県への観光入域客数は約641万人となり、過去最高を記録しました。昨年3月の新石垣空港開港、LCCなどの国内外航空路線の拡充、大型台風の沖縄本島接近が例年より少なかったなどが増加要因になったと考えられます。

2014年には国内外の受け入れ拠点となる「那覇空港新国際線ターミナル」「那覇クルーズターミナル（那覇港）」が相次いで供用開始となります。さらに「那覇空港第二滑走路新設工事」も始まり、国内需要はもとより、今後の海外インバウンド需要の活性化を期待するものであります。

沖縄県もMICEコンベンション施設整備計画や多様なエンターテインメントを導入し、ビジネスからファミリーまで多様なニーズに充実した時間を提供する「複合型統合リゾート」導入の検討など、自立経済の構築に向けてリーディング産業である観光・リゾート産業の一層の飛躍に取り組み出しています。

旅ホ連沖縄支部としても県の観光誘致政策と連動した事業をさらに推進していきたいと考えています。また、観光関連団体で組織する「沖縄観光の未来を考える会」「クリーンピック実行委員会」「おきなわトリエンナーレ開催検討委員会」への協力、「FC琉球」などのスポーツMICEイベントの協賛広告などを継続展開していきます。

トップツアーが提唱する「お客様満足度100％」を具現化するためには、今後も団体・個人双方において、旅ホ連加入施設に連動した具体的施策が不可欠であります。

本年度も会員各位施設へのさらなる送客をお願いします。